資料館インフォメーション

春の特別企画展　第２弾　開催!!
～イタイイタイ病と闘ってきた住民の方々の功績を振り返ります～

春の特別企画展

『立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～』

イタイイタイ病対策協議会の初代会長として患者救済、裁判勝訴に向け努力した小松義久氏と小松氏を支え、共に闘った住民の方々の功績を写真パネルの展示、関係者による鼎談で振り返ります。

○写真パネルの展示

期間：4月25日（土）～5月6日（水・振休）
会場：イタイイタイ病資料館　2階　交流学習ルーム

○鼎談

日時：4月29日（水・祝）14:00 ～16:00
会場：とやま健康パーク　2階　第１研修室

資料館の動き

これまでの出来事（平成26年度下半期）

平成26年
- 9月27日(土)　語り部による伝承会
- 11月　8日(土)　入館者90,000人達成（784日目）
- 12月　5日(金)～7日(日)　公害資料館連携フォーラム in 富山
- 12月26日(金)　イタイイタイ病資料館活用研修会

平成27年
- 1月27日(火)～29日(木)　イタイイタイ病映像展
- 2月14日(土)　イタイイタイ病を考える県民フォーラム

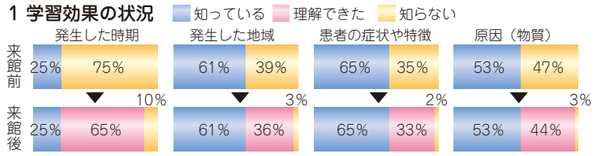
これからの行事予定　平成27年度上半期

- 4月25日(土)～5月6日(水)　春の特別企画展『立ち上がった住民、取り戻した清流～リーダー小松義久と共に～』
- 6月20日(土)　語り部・解説ボランティア研修会　※一般公開はありません。
- 7月31日(金)～8月1日(土)　夏休み自由研究講座～イタイイタイ病を学ぼう～
- 8月　7日(金)　イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー
- 8月下旬　イタイイタイ病資料館活用研修会

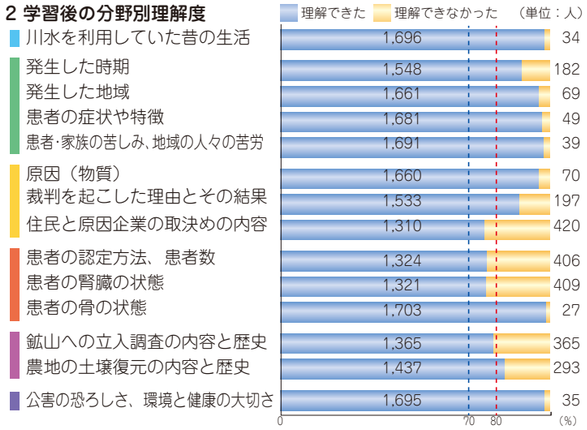
課外学習サポート事業調査結果報告

「課外学習サポート事業」利用者調査結果（2014年度中間とりまとめ）
調査対象／小中大学生 1,730人（33校）

1 学習効果の状況



2 学習後の分野別理解度



調査結果から

1．学習効果の状況

来館前に「知らない」と回答した子どもたちのうち、来館後に「理解できた」と回答する子どもたちが概ね９割を占め、資料館での学習が子どもたちの理解に着実に結びついていることが分かりました。

2．学習後の分野別の理解度、効果

特に今回の調査で、子どもたちの理解が深まった部分、印象に残った部分で多かったのが、「患者の症状や特徴」、「患者・家族の苦しみ、地域の人々の苦労」、「患者の骨の状態」といった職員が写真や模型を使って解説する部分でした。このことから解説時に子どもたちの視覚や感情に訴えるような工夫をすることが、理解を深めるのに有効であることが分かりました。

○課外学習サポート事業の利用校募集のお知らせ
～今年も無料送迎バスを提供します！！～

3月24日(火)より受付

多くの子どもたちにイタイイタイ病の恐ろしさやその克服の歴史を学んでもらうため、学校などに「無料送迎バス」を提供する「課外学習サポート事業（環境省委託）」を実施します。資料館への送迎は、これまでと同様に、学校や県内施設を起点・終点として実施します。昨年度からは、近接の「四季防災館」も見学する場合、無料区間が延長され、より利用しやすい内容になりました。たくさんのご利用をお待ちしています。

詳しくは、資料館までお尋ねください。

無料送迎の対象区間のイメージ　■の表示部分が無料区間となります。

1 「資料館」の見学〔基本タイプ〕
学校(県内施設) ……▶ 資料館 ……▶ 学校(県内施設)
資料館負担

※県内施設を起点・終点として資料館を見学される場合、「学校⇔県内施設」までの移動区間は、学校負担となります。
県内施設のうち、「四季防災館」を見学される場合は、次の❷～❹のとおりとなります。

2 「資料館」+「四季防災館」の見学〔連携事業：標準タイプ〕
学　校 ……▶ 資料館 ……▶ 四季防災館 ……▶ 学　校
資料館負担　四季防災館負担

3 「資料館」+「四季防災館」+「県内施設」の見学〔連携事業：応用タイプ①〕
学　校 ……▶ 資料館 ……▶ 四季防災館 ……▶ 県内施設 ……▶ 学校
資料館負担　四季防災館負担　学校負担

4 「資料館」+「四季防災館」+「県内施設」の見学〔連携事業：応用タイプ②〕
学校 ……▶ 県内施設 ……▶ 資料館 ……▶ 四季防災館 ……▶ 学　校
学校負担　資料館負担　四季防災館負担

❷❸❹は、逆コースの場合も同様の取り扱いとなります。

メールマガジン【登録者募集中】
月に1回、資料館の最新情報などをお伝えするメールマガジンを配信しています。配信を希望される方は、次のメールアドレスあてにメールを送信してください。【mlhope@itaiitai-dis.jp】

発　行／富山県立イタイイタイ病資料館　〒939－8224 富山県富山市友杉151番地（とやま健康パーク内）
電　話▶076-428-0830　ＦＡＸ▶076-428-0833
ＵＲＬ▶ http://itaiitai-dis.jp
（平成27年3月発行）
富山県

富山県立イタイイタイ病資料館
Toyama Prefectural Itai-itai Disease Museum

資料館だより

2015年　春　号

contents

公害の事実と教訓を後世に …… 2
新しい公害教育の「かたち」とは？ … 2
子どもたちに公害の教訓を伝えるために 3
語り部コーナー …… 3
資料館インフォメーション …… 4

平成27年 2月14日

イタイイタイ病を考える県民フォーラム開催

富山大学
人間発達科学部附属小学校

小矢部市立津沢中学校

富山大学人間発達科学部

金沢大学人間社会学域地域創造学類
環境共生コース　香坂ゼミ

まもなく入館者１０万人を迎えるにあたって

富山県立イタイイタイ病資料館　館長　鏡 森 定 信

当資料館は平成２４年４月２９日に開館しましたので、今年、開館４年目に入ります。

これまで９万８千人を超える方々にご来館いただきました。そのうち団体は約３０％で、生徒学生の皆さんがその半数を超え、その大半（８０％）が小学生の皆さんでした。ご来館いただいたいくつかの小学校には当資料館で行うイ病県民フォーラムで学習成果を発表していただきました。これまで３回の開催では、寸劇などを取り入れての熱のこもった発表もあり、フロアの皆さんは改めてイ病の歴史の重さを感じ取られたようです。

また、昨年、市民の皆さんが、自主的にイ病を語り継ぐ会をスタートされました。このような県民の皆さんの活動と心を合わせて、当資料館の運営も一層工夫し、イ病の学びを深めていきます。２７年度もよろしくお願いいたします。

県民フォーラム 公害の事実と教訓を後世に ～公害資料館の果たす役割とは～

２月１４日（土）、開館以来、三回目となる「イタイイタイ病を考える県民フォーラム」を開催しました。石井知事の開会挨拶では、一昨年末の被害者団体と原因企業による「全面解決」に関する合意、そして（一財）神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の設立に触れられ、関係者のこれまでの努力に敬意と感謝の意を述べられるとともに、未来を担う若い世代に悲惨なイタイイタイ病の歴史とその克服の過程を学んで欲しいと述べられました。

学習発表会では、県内の小・中学生、富山大学の学生の３つのグループ、そして金沢大学の大学院生からイタイイタイ病の学習状況や研究の成果などを発表していただきました。小・中学生たちは、これまで授業や資料館の見学で学習した内容に自分の感想や考えをまとめて発表されました。その後、鏡森館長が資料館の入館者の状況や取組みについて事業報告を行いました。

午後は、歌手で教育学博士のアグネス・チャン氏による「水の惑星に生まれて～美しい海と森について～」と題した県民講座を開催しました。世界の水事情に触れつつ、自身の幼い頃の生活体験やユニセフでの活動経験を交え、水の重要性についてお話しいただきました。世界では十分な水が得られないために紛争が起こり、多くの子どもたちが、命を落とし、学ぶ時間を失っている事実があること、環境を守り、豊かな水を確保していくことが人類の課題であることをお話しいただきました。

この後、四大公害病の資料館長等によるシンポジウムでは、『公害病資料館の果たす役割と課題』について意見交換を行いました。

新しい公害教育の「かたち」とは？
～子どもたちにどのように伝えるのか～

○語り部による伝承会【９月】

９月２７日（土）、『語り部による伝承会』を開催し、県内外から約６０名の方々にご参加いただきました。四大公害病の語り部が一堂に会して伝承会を行うのは昨年に続き２回目となります。前半では、水俣市立水俣病資料館の杉本肇さん、新潟県立環境と人間のふれあい館の小町ゆみ子さん、四日市公害からは伊藤幹郎さん、そして地元イタイイタイ病資料館の柞山八郎さんにご自身の公害体験について語っていただきました。参加者の方々は、講話の中で垣間見える語り部のお人柄に触れながら、それぞれの語り部独特の口調で語られるお話に真剣に聞き入っておられました。後半では、講話いただいた４人の語り部とイタイイタイ病対策協議会の髙木勲寛会長、資料館の鏡森館長による意見交換会を行いました。その中では、子どもたちに聞いてもらうための工夫という観点から、具体的な手法についても意見が出されました。語り部は、過去の歴史や教訓を現代から未来へ伝え繋げる重要な役割を担っていること、そのためにも「語りもれ」なく事実を正確に語り伝えることの必要性を参加者全員で確認しました。

○公害資料館連携フォーラム in 富山【１２月】

１２月５日（金）から７日（日）までイタイイタイ病資料館等を会場に第２回公害資料館連携フォーラムが開催されました。３日間の日程で全国から集まった公害資料館、ＮＰＯ、公害関係団体等が各地の取組みや課題を共有し、これからの「新しい公害教育」について考えました。

初日のフィールドワークでは、イタイイタイ病資料館の展示解説後、バスでイタイイタイ病対策協議会の髙木勲寛会長の案内のもと、復元記念碑等、神通川流域のイタイイタイ病に関係する場所を巡り、富山のイタイイタイ病を学ばれました。

２日目は、株式会社クレアン代表取締役でＮＰＯ法人サステナビリティ日本フォーラム事務局長の薗田綾子さんに『企業との対話の可能性』という演題で基調講演をしていただきました。薗田さんがこれまで手掛けてこられた有名企業の事例紹介を交えながら、企業がＣＳＲ（企業の社会的責任）を果たしていくうえでは、地域住民や関係団体、株主といった利害関係者との対話が重要な役割を占めることについてご講演いただきました。

基調講演に続き分科会が翌７日にかけて行われ、「公害資料の収集・保存・整理」や、「学校との関係づくり」等、７つのテーマでゲストを招き、熱い議論が交わされました。参加者は、発表やワークショップを通して公害の伝承や教訓を活かす取組みについて意見交換し、今後のあり方について考えました。特に６日の「企業との関係づくり」の分科会では、神岡鉱業株式会社からもご参加いただき、これまでの環境被害克服への取組みや今後の課題などをお話ししていただきました。パネルディスカッションでは、被団協の立入調査等の実施を通して構築してきた原因企業と被害者団体との「緊張感ある信頼関係」を例に公害被害の克服や資料館を含めた三者連携の重要性について考えを共有しました。原因企業、被害者団体、県立資料館の三者が同じテーブルに着き意見を交わすのは初めてのことでした。また、７日の学校との関係づくりをテーマにした分科会では、富山市立宮野小学校の柳田和文先生にイタイイタイ病を題材にした授業の実践事例について発表していただきました。

最終日には、全体会として分科会での話し合いの成果を会場の参加者全員で共有し、その中で出た課題に対する解決策を模索しました。全体会の最後には、普段立場の違いからなかなか会することのない人たちが、『公害』『教育』という共通のテーマで一緒に考え、話し合うことでお互いの考えや果たす役割について共有し、お互いの理解を深めることができた３日間となりました。

公害資料館連携フォーラム in 富山
＜日程と内容＞
１２月５日（金）フィールドワーク
１２月６日（土）基調講演、分科会
１２月７日（日）分科会、全体会

○イタイイタイ病を考える県民フォーラム・シンポジウム【２月】

県民フォーラムのシンポジウムでは、四大公害病資料館の館長等が各資料館の展示や取組みなどについて紹介しました。その中では、今年3月21日にオープンする「四日市公害と環境の未来館」についての紹介もありました。四日市の資料館完成により、四大公害病資料館が全て完成することになります。

また、イタイイタイ病対策協議会の髙木会長にも参加いただき、清流会館とイタイイタイ病資料館の展示の違いに触れながら、『全面解決』の合意に至るまでの取組みの過程を是非学んでいって欲しいとのお話しがありました。各館の紹介後は、『公害病資料館の果たす役割と課題』をテーマに話し合いました。

資料館の使命の一つは、子どもたちに公害の歴史と教訓を正確に伝えることであるとの認識は四大公害病資料館として一致していますが、その伝達方法は、それぞれの地域で違いがあります。公害被害者と加害者との関係や地域性の違いから、学校での子どもたちへの伝え方にも違いがあることが今回のシンポジウムで明らかになり、自分たちの館に足りないものも見えてきました。

コーディネーターを務められた富山大学の根岸秀行教授が、「被害地域に資料館が存在することは、地域社会への貢献を義務付けられている。また資料館は地域を発展させる可能性のある器としての側面があり、その器にこれから何を盛り付けるのか？それが課題である。」とお話しされましたが、まさに資料館としての大きな役割は、地域社会への貢献なのかもしれません。地域社会への貢献という意味でも子どもたちへの公害教育・環境教育というものに資料館が果たす役割は大きいと改めて感じます。

各資料館がその大きな役割を担うためにも、今回のような資料館との交流が、お互いの情報を共有するだけでなく、お互いを切磋琢磨する機会になればと考えています。

イタイイタイ病資料館としても今後もこのような取組みを継続させていきたいと考えております。

子どもたちに公害の教訓を伝えるために

イタイイタイ病資料館活用研修会を開催し、県内の小学校の教員や大学生３３名が参加されました。

イタイイタイ病や当資料館を社会科の授業や総合的な学習の時間、道徳の時間などに役立てていただくため、教員向け研修会を実施しました。

研修会では、資料館の展示見学、小松雅子さんの語り部講話の聴講の後、富山市教育センターの三原茂指導主事に自身の体験に基づいた教育現場でのイタイイタイ病の過去と現在の取り上げられ方の違いについての事例発表をしていただきました。また、富山国際大学子ども育成学部の水上義行教授からは、「学校カリキュラムの中にいかに公害事件をとりこむか」というテーマで講義をいただき、イタイイタイ病を教育に位置づける意義や副読本の活用方法など、授業に取り入れるための実践的な指導や助言をしていただきました。参加者の中には、初めて来館された方もおられ、研修後には、とても有意義な時間を過ごさせていただいたとの感想もありました。資料館では、1人でも多くの現場の先生方に資料館の存在、そして学習できる内容を知っていただき、授業に活用していただくための取組みを進めていきます。

日時と内容
平成２６年１２月２６日（金）
〈１３：００～１６：００〉
・資料館見学メニューの体験
・イタイイタイ病を題材とした授業の実践事例紹介
　『教育現場におけるイタイイタイ病の過去と現在』
　富山市教育センター　三原　茂　指導主事
・講義・助言・総括
　『学校カリキュラムの中にいかにイタイイタイ病を取り込むか』
　富山国際大学　子ども育成学部
　水上　義行　教授

参加者の声

資料館を詳細に説明していただくと共に、語り部講話や講師の方々の講演により教育的な実践について様々な角度から学ぶことができました。（20歳代　男性）

公害について教師が正しい知識を持つことは大切だと思うので、どの先生方もこの研修が受けられるといいと思います。（30歳代　女性）

学習指導要領の変遷、実践事例紹介、語り部講話と多角的な視点があり、大変勉強になりました。（50歳代　男性）

教育活動、授業実践に関する具体的な点から話を聞くことができてよかったです。また、展示コーナーの説明もとても分かりやすかったです。（50歳代　男性）

初めての来館でしたが、見学して知識が深まったことに加え、語り部さんのお話は聞く者の胸に迫り、当事者の方々の苦労や熱意が伝わりました。（50歳代　女性）

イタイイタイ病を語り継ぐ 語り部コーナー

今回紹介する「語り部」さんは青島明生さんです。
青島さんは、被害者弁護団の一員としてこれまでイタイイタイ病と向き合ってこられました。他の「語り部」さんとは違った弁護士としての視点からのこれまでの取組みの一端を振り返っていただきました。

『語り部として活動して』 青島明生さん（59歳）

私が中学校の頃イタイイタイ病の裁判が始まり、高校生の頃に判決が出され、確定しました。当時新聞やテレビでもよく報道されていました。その頃弁護士を志し、１９８６年弁護士となって富山に戻り、弁護団事務局の法律事務所に入り、患者認定問題や発生源問題に取り組んできました。

立入調査で、当初硬かった原因企業の態度が、徐々に住民側の合理的な指摘を受け入れ、それに取り組もうという姿勢になってきたのが印象的でした。患者認定問題はなかなか難しい面もありますが、異議申立・不服審査請求や行政訴訟にも取り組み、改善が図られたところも少なくないと思います。

最近原因企業との間で全面解決の合意ができました。これを実現した根本的な力は、被害住民１人ひとりが立ち上がり、粘り強く取り組んできた積み重ねだと思いますが、医学者･科学者の協力と、弁護団の努力も力になったと思います。また、原因企業が、公害防止協定など被害住民との合意を守って会社運営を行ってきたこともあると思います。

この経験は、大きな目で見れば、カドミウム公害による悲惨な人身被害の発生ですが、それを関係者の努力で克服できたという点では世界と歴史に誇れる貴重な成果です。

私たちの経験は、１人ひとりが自分の問題として捉えなければならないことを教えてくれています。

弁護団の一員として住民の立場から資料館構想や建設を求める要請文を考え、県の企画・設計にも要望を出してきた者として、自分の体験をお話しすることによって、来館者の１人ひとりが公害・環境保全について自分の問題として取り組むことの大切さを感じてもらえるよう、お役に立てればと思います。

語り部講話の聴講ができます。
対象は10名以上の団体で、事前申込が必要です。
詳しくは資料館へお問い合わせ下さい。なお、席に余裕がある場合は個人の方も同席のうえ、聴講できます。